

EU経済論		教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目	科目ナンバリング	23200203

1. 授業のねらい・概要

揺れ動く欧州連合 (EU) が抱える本質的な問題について、より経済的な側面から学ぶことが本講義のねらいである。英国の離脱問題はもとより、難民問題、通貨問題等を中心に取り上げる。欧州連合 (EU) とは、もとよりいかなる歴史的意義をもった試みであるかを取り上げる。また、他の地域においてこうした試みは果たして可能なのか、また可能であればどのような可能性をもつのかを取り上げる。

2. 授業の進め方

テキストはもとより、日々変化していく状況についての資料、データ等を用いる。受講者が自らの自筆ノートを作成し、自力で考えることを目指す授業とする。

3. 授業計画

1. イントロダクション (授業の概要、進め方等について)	9. デンマークに見る生産性と輸出、雇用、農業
2. 欧州連合 (EU) の誕生と歴史的意義	10. 欧州連合 (EU) と米国の経済関係について
3. ユーロ危機とギリシャ問題	11. 欧州連合 (EU) とアジアの経済関係について
4. 欧州難民問題の概説	12. 欧州連合 (EU) における財政問題
5. 欧州の安全保障問題と経済	13. イギリス離脱後の欧州と世界について
6. イギリスの離脱問題が示す課題と影響	14. 欧州連合 (EU) の課題と今後
7. イギリスが抱える国内問題	15. 総括と期末試験について
8. ユーロに参加しないデンマークの成功とは	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習として、テキストを事前に読んでおくことを求める。そうした準備のもとに、新たに加える論文、資料、データを用いて、授業ごとに2時間程度の復習することが求められる。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

ミニッツペーパーによる質疑応答を目指したい。課題については、次の授業の冒頭で解説する。学期末試験の採点結果、質問等については要望があれば対応する。

6. 授業における学修の到達目標

欧州連合 (EU) の歴史意義はなんであるのかを学ぶことを到達目標とする。また、果たして今後もその歴史的意義と政策効果を有するのかを学ぶことに目標を置いている。

7. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況 (レポート、宿題等) (30%) 期末試験 (70%) によって総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は、遠藤乾 (2016) 『欧州複合危機 苦悶する EU, 揺れる世界』 (中公新書, 860 円+税)。参考文献は、田中素香 (2016) 『ユーロ危機とギリシャ反乱』 (岩波新書, 820 円+税)。授業において適宜、必要な論文、資料、データ等を配布する。

9. 受講上の留意事項

「グローバル化と国際社会 A・B」については、履修済みであることが望ましい。